



新しい朝

府中市立府中第十中学校
学校だより 第5号
校長 芹澤 敏光
令和4年9月26日

安全、安心、充実した生活を

校長 芹澤 敏光

9月も最終週を迎え夜には虫の鳴き声がたくさん耳に届き、ようやく秋の気配が濃くなりました。生き物の鳴き声や木々の色づき、花が咲き誇る様子、空や雲の変化など、やはり自然から季節の移り変わりを感じることができるのはいいものです。時には季節の変化を肌で感じながらゆったりとした時間を過ごすことは心の安定にもつながり、ひいては日々の生活の充実にも欠かせない気がします。

さて、先日14日(水)には、令和4年度・第44期生徒会役員選挙立会演説会・投票が行われました。立候補者が10名も出て、学校生活の向上を目指して生徒全体の中心として頑張ろうとする生徒がたくさんいることを非常に頼もしく感じました。選挙の結果も受けて、今後生徒会活動などは3年生から1・2年生にバトンタッチしていくことになりますが、1・2年生一人一人にとってそれだけ自分自身を成長させる機会がたくさんあるということにもなります。貴重なチャンスを無駄にしないようにしてください。3年生にとっては言わずもがなですが、これからが進路選択・決定に向けて最も重要な時期となります。後悔しないように全力を尽くしてください。

3年生は進路決定へ向けていろいろと思いを巡らせていくなかで、自分自身を見つめ直すこともたびたびあるはずですが、中学生の時期は、1年生は小学生気分がなかなか抜けきらないことも多いですが、2年生くらいから本格的に心身ともに自立していくようになります。家族との関係性も変化し、どこかで孤独を欲するようなことも出てきます。中学生にとって孤独というと何かマイナスイメージが湧いてしまうかもしれませんが、むしろこの時期に孤独ということ意識してあえてその状態と向き合い、それに対応していく力を養っていくことは人生の中でも大切なことです。その力を養う最初の時期が中学校2・3年生のころだと思います。

もちろん中学生にとって友人の存在も非常に重要です。友人関係が安定していることによって気持ちが充実しお互いを高め合い、苦しいことや困難なことを乗り越えていくこともできます。自分が誰かの役に立っている、必要とされているという経験をすることで、一人の人間としても強くなっていきます。ただそのようなことの根底には自分自身を客観視したり、孤独を受け留めて向き合い物事を一人でじっくりと深く考えたりすることがなければ、友人の顔色ばかりをうかがったり、必要以上に友人に振り回されてしまうことにもなりかねません。孤独との前向きな付き合い方を学ぶことが友人関係をより発展させることにもつながるはずですが、孤独との向き合い方は学習面を考えた時にも、非常に大きな意味を持つと思います。

ところで、9月21日(水)から30日(金)まで秋の全国交通安全運動が実施されています。今回の運動の重点の一つに「自転車の交通ルール遵守の徹底」があげられています。特に中・高生にとって自転車乗用中の交通事故は非常に心配されることです。実際、夏季休業中にも十中生の自転車乗用中の交通事故の報告がありました。幸い命に関わるような大事には至りませんでしたが、万が一のことを考えるとぞっとします。警視庁の資料によれば都内で2021年に発生した交通事故のうち、自転車が関与していた割合は43.6%です。別の内閣府の調査によると、自転車乗用中事故では小学6年生から中学1年生で死傷者数が倍増に、中学3年生から高校1年生で死傷者数が約3倍に増加し、高校1年生が死者・死傷者数ともに最多となっているそうです。また中・高生の自転車事故のうち約7割で何かしらの法令違反が見られています。自らの命を危険にさらすようなことがないようにくれぐれも気を付けてください。